11月20日(金曜日)「主イエスの復活(2)」

【新改訳 2017】

ルカ　24•13-35

「ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから……エマオという村に行く途中であった。そして、ふたりで……話し合ったり……しているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。」(13-15節)

主イエスは、死から復活された後、ご自分を復活のからだ(栄化されたからだ)で、いろいろなところで現されました。これを顕現と言います。最初は墓地で女たちに、それからペテロ、十二弟子たち、五百人以上の人たちに、少なくとも合計十一回はご自分を現しておられます。

きょうの箇所もその一つで、聖画でも有名です。この二人の弟子は復活の主が共におられることに気づかず、もう一人の仲間のように会話を交わしました。しかし、イエスが聖書の話をされ、家で晩餐を共にされた時、弟子たちの目が開かれ、復活の主だとわかりました。

今も同じです。復活の主との出会い(信仰)は、心の目を開き、

心を燃える思いで満たしてくれるのです。心から主をあがめ、信頼しましょう。

～祈り～

主よ。今、あなたは、聖霊とともに、またみことばとともに、復活された生ける主としてご臨在くださることを感謝します。みわざを拒むことがありませんようにお守りください。

【学びのために】

ヨハネ 15•5、7-11、ガラテヤ 2•19-21、ピリピ 3•8-11 ほか参照。